

修士論文(要旨)
2020年1月

都市部若年層における高年層に対するサポート提供の関連要因

指導 渡辺 修一郎 教授

老年学研究科
老年学専攻
218J6001
大塚 良雄

Master's Thesis(Abstract)

January 2020

Factors Related to Providing Support for the Elderly by Younger People in
the Metropolitan Area.

Yoshio Otsuka

218J6001

Master's Program in Gerontology

Graduate School of Gerontology

J.F.Oberlin University

Thesis Supervisor:Shuichiro Watanabe

目次

I.目的	1
II.方法	1
III.結果	1
IV.結論	1
文献	i
資料	I

I. 目的

ボランティア行動の規定要因に関わる量的研究と向社会的行動を促す要因に関わる研究を手がかりに、若年層の高年層に対するサポート提供の実態をとらえ、今後の教育現場での高齢者と関わる活動について何らかの示唆を得るため、都市部若年層における高年層に対するサポート提供の関連要因について検討することを目的とした。

II. 方法

本研究は、東京都健康長寿医療センターの研究部門倫理審査の審査・承認を得た上で実施された(平成28年6月1日;承認番号28号健経第1042号, 受付番号5)国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)社会技術研究開発センター(RISTEX)戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発):ジェネラティブティで紡ぐ重層的な地域多世代共助システムの開発(代表研究者:藤原佳典)の一環として行われた、東京都A区ならびに神奈川県川崎市B区を対象とした地域介入研究「多世代が安心して暮らせる地域づくりに向けた調査」(平成28,8実施)の初期調査データのうち、25~49歳の13,549人に対し実施された自記式郵送調査の有効回答を得た3,326人(若年層)の調査データを二次的に用いた。目的変数に若年層における高年層(70歳代以上)へのサポート提供、説明変数に性別(男性, 女性), 70代以上の高齢者との会話機会, 精神的健康状態, 配偶者の有無, 未就学児の有無, 祖父母との同居(該当・非該当), 学歴, 主観的経済状況, 気になる高齢者の有無, 70代以上の高齢者への信頼, 介護経験の有無, 地域活動への参加, 就労, サポートの受容, 家庭科共修経験の有無を用い, 二項ロジスティック回帰分析を行った。

III. 結果

高年層へのサポート提供をしていた若年層は、手段的サポートが456人(13.8%), 情緒的サポートが164人(5.0%)であった。

若年層から高年層への手段的サポート提供には、大卒以上の学歴は負に関連していた($RR=0.74$)。有意な正の関連がみられたのは、70代以上の高齢者と会話機会がある($RR=5.61$)、気になる高齢者がいた($RR=2.50$)、介護経験がある($RR=1.39$)、高年層からのサポートの受容(手段的($RR=3.48$), 情緒的($RR=3.26$)), 家庭科共修経験有($RR=1.64$)であった。性別, 祖父母との同居, 配偶者の有無, 未就学児の有無, 精神的健康状態, 主観的経済状況, 70代以上の高齢者への信頼, 就労との有意な関連はみられなかった。

若年層から高年層への情緒的サポート提供には、未就学児有($RR=0.48$)および大卒以上の学歴($RR=0.56$)は負に関連していた。有意な正の関連がみられたのは、70代以上の高齢者と会話機会がある($RR=11.14$)、気になる高齢者がいた($RR=1.83$)、介護経験がある($RR=1.75$)、高年層からのサポートの受容(手段的($RR=2.63$), 情緒的($RR=10.08$))であった。性別, 祖父母との同居, 配偶者の有無, 70代以上の高齢者への信頼, 精神的健康状態, 主観的経済状況, 地域活動への参加, 就労, 家庭科共修経験との有意な関連はみられなかった。

IV. 結論

地域の人間関係が希薄化していると言われていてもかかわらず、都市部においては、自然発生的な若年層と高年層との世代間交流の互酬性^{1) 2)}や若年層からの高年層への共感性が見られた。一方、超高齢社会のわが国において、ますます地域における世代間の助け合いを構築することが重要になると考えられる。そのためにも、将来のわが国を支える児童・生徒に、世代間交流における互酬性に視点を当てながら、高齢者との交流やボランティア教育などを通して、思いやりや気づかいといった気持ちや人の役に立とうとする態度を育むことが求められる。

文献

- 1) Putnam RD: Bowling along: The collapse and revival of American community. Simon & Schuster, New York. 2000 柴内康文訳: 孤独なボウリング; 米国コミュニティーの崩壊と再生, pp156-218, 柏書房, 東京(2006).
- 2) 播磨優子, 佐々木久長: 地域住民のソーシャル・キャピタルと精神的健康との関連. 秋田大学保健学専攻紀要, 21(2) 97-111(2013).

資料 表1. 調査項目の回答分布

若年層(25-49歳)の特性 <i>n=3326</i> 年齢 平均38.2 SD7.0		
	<i>n</i>	%
性別		
男性	1340	40.3
女性	1986	59.7
婚姻状況		
配偶者あり	2009	60.7
配偶者なし	1302	39.3
祖父母との同居		
該当	52	1.6
非該当	3237	98.4
未就学児の有無		
あり	821	24.7
なし	2505	75.3
最終学歴		
大卒以上	1682	51.1
小・中・高・短大・専門卒	1612	48.9
暮らし向き		
ゆとりがある	1226	37.2
ゆとりがない	2068	62.8
精神的健康状態		
健康である	1921	58.2
健康でない	1380	41.8
70代以上の高齢者との会話		
あり	728	22.2
なし	2555	77.8
70代かそれより高齢の人への信頼		
信頼している	1369	41.4
信頼していない	1935	58.6
近隣の高齢者を気にする		
あり	627	19.1
なし	2661	80.9
家族や親戚の介護・看病の経験		
あり	929	28.2
なし	2369	71.8
就労		
あり	2812	85.7
なし	469	14.3
地域活動への参加		

参加	1703	52.4
非参加	1547	47.6
手段的サポートの提供		
あり	456	13.8
なし	2841	86.2
情緒的サポートの提供		
あり	164	5.0
なし	3131	95.0
手段的サポートの受領		
あり	202	6.1
なし	3091	93.9
情緒的サポートの受領		
あり	120	3.6
なし	3178	96.4
家庭科共修経験		
あり	1378	41.4
なし	1948	58.6

表 2. 若年層における高年層への手段的サポートの提供の関連要因

若年層における高年層への手段的サポートの提供(ある:1 なし:0)

	<i>b</i>	<i>S.E.</i>	<i>exp(b)</i>
性別(1:女性0:男性)	-.035	.186	.966
祖父母同居(1:該当0:非該当)	.288	.441	1.334
配偶者(1:あり0:なし)	-.232	.150	.793
未就学児(1:あり0:なし)	-.142	.171	.867
70代以上の高齢者との会話(1:あり0:なし)	1.725	.137 ***	5.612
高齢者を気にする(1:あり0:なし)	.916	.137 ***	2.500
70代以上の高齢者への信頼(1:あり0:なし)	.189	.128	1.208
親・親戚への介護・看病経験(1:あり0:なし)	.332	.332 *	1.394
精神的健康状態(1:健康である0:健康でない)	.198	.134	1.219
学歴(1:大卒以上0:小・中・高・短大・専門卒)	-.295	.133 *	.744
主観的経済状況(1:余裕あり0:余裕なし)	-.105	.135	.901
地域活動への参加(1:参加0:非参加)	.354	.135 **	1.424
就労(1:あり0:なし)	.085	.183	1.008
手段的サポート受領(1:あり0:なし)	1.247	.210 ***	3.481
情緒的サポート受領(1:あり0:なし)	1.182	.277 ***	3.259
家庭科共修経験(1:あり0:なし)	.494	.140 ***	1.638
-2対数尤度	1784.045		
Cox and Snell R ²	.180		
Nagelkerke R ²	.331		
n	3326		

注:* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

二項ロジスティック回帰分析

表 3. 若年層における高年層への情緒的サポートの提供の関連要因

若年層における高年層への情緒的サポートの提供(ある:1 なし:0)			
	<i>b</i>	<i>S.E.</i>	<i>exp(b)</i>
性別(1:女性0:男性)	.341	.252	1.406
祖父母同居(1:該当0:非該当)	-.030	.692	.971
配偶者(1:あり0:なし)	-.016	.251	.984
未就学児(1:あり0:なし)	-.741	.318 *	.477
70代以上の高齢者との会話(1:あり0:なし)	2.410	.280 ***	11.137
高齢者を気にする(1:あり0:なし)	.602	.225 **	1.826
70代以上の高齢者への信頼(1:あり0:なし)	.056	.222	1.058
親・親戚への介護・看病経験(1:あり0:なし)	.560	.222 *	1.751
精神的健康状態(1:健康である0:健康でない)	-.248	.230	.781
学歴(1:大卒以上0:小・中・高・短大・専門卒)	-.580	.236 *	.560
主観的経済状況(1:余裕あり0:余裕なし)	.105	.233	1.111
地域活動への参加(1:参加0:非参加)	.303	.247	1.353
就労(1:あり0:なし)	-.270	.282	.764
手段的サポート受領(1:あり0:なし)	.967	.273 ***	2.629
情緒的サポート受領(1:あり0:なし)	2.331	.292 ***	10.080
家庭科共修経験(1:あり0:なし)	-.156	.255	.856
-2対数尤度	665.122		
Cox and Snell R ²	.145		
Nagelkerke R ²	.464		
n	3326		

注:* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

二項ロジスティック回帰分析